

ひろしま木育アカデミー2023 第3回 開催報告

ひろしま木育アカデミー2023 第3回木材の特性編を7月29日（土）に学研廿日市市多世代サポートセンターにて開催しました。

午前は、はじめに「身のまわりの木製品」について木村よりお話ししました。そのうち、木材の利用（木製品）の過去－現在－（未来）では、東大寺正倉院宝庫の構造、広島県内の公共的な場所と身近な製品への木材利用、これからの木材利用などについて、人との関わりを含めて紹介しました。次に、「子どもにとってのおもちゃの役割」について山口大学教育学部の川崎徳子先生よりお話しいただきました。乳幼児期の発達特性、子どもの主体的な活動に繋がる、育ちを支える環境、遊びと発達の関係およびおもちゃの位置付けなどについて幅広く学ぶことができました。木のおもちゃであることの意味を考える第一歩になったのではと考えています。

午後は、はじめに「木のおもちゃを体験しよう」として、木の玉プール、木のお店屋さんセット、薄い板の積み木、ズレンガの4種類の木のおもちゃを体験する活動を行いました。まず、株式会社浅尾の青木栄次様よりズレンガ、一場より木の玉プールと木のお店屋さんセットの説明を行った後、どのような遊びができる？どのような木材の特徴を感じることができる？安全面は？の3つの視点を考えながら実際に遊んでいただきました。私自身、体験を通しておもちゃによって触れることができる木の特徴や適時性に違いがあることなどに気がきました。次に、「木材の特性を知ろう」として木のおもちゃの体験を通して木の特徴と安全面について感じたことの振り返り、木材の特徴とその香り、肌触りおよび木育プログラムが人に与える作用について、木村よりお話ししました。特に、後半は木のおもちゃでの遊びと関わり深いエビデンス（ex. 落ち着く、鎮静作用、気分の改善）について取り上げましたが、もう少し分かりやすくするための工夫が必要と反省しています。最後の「今日の内容を振り返ろう」では、今日行ったこと、今日の活動を通して分かったこと、次にやってみたいことを挙げ、グループ内で共有しました。



3 回目の木材の特性編は、木のおもちゃを通して木材の特徴や利用の意義を考えることを目指しました。私自身、実際に木に触れることの大切さを改めて感じる場となりました。

（文責：木育普及委員会 副代表 木村 彰孝）